共にしあわせ産みだす党　日本共産党

市議団ニュース

第2000号　2021年11月28日

日本共産党　根室市議団

根室市宝林町4-203　TEL0153-23-6023

学校を応援して、子ども達を地域みんなで育てていく仕組みづくり

市コミュニティ・スクール研修会－市教委が開催しました

11月19日、市教育委員会は「コミュニティ・スクール研修会」を市総合文化会館で開催しました。市内の学校関係者など約60名程が参加して、元北海道CSアドバイザーを講師に、コミュニティ・スクールの基礎的な仕組みや先進事例等について学びました。

根室市では、コミュニティ・スクールを歯舞学園校区で今年度に実施。次年度から市内すべての中学校区で展開する予定になっています。

開会あいさつで、波岸教育長は「学校と住民が地域で育てたい子ども像について十分に共通理解を深めることが必要」と述べていました。

講師の櫻井貴志氏（伊達市教育委員会教育部参与）が、コミュニティ・スクールの基本的な概要や先進事例の取り組みの説明を聞きながら、今後根室市としてどのような形で取り組んでいくべきかについて講演しました。

コミュニティ・スクールは、教育委員会が任命する「学校運営協議会」を設置した学校で、地域や保護者の方々が学校運営に参画し、学校を応援する仕組みです。

校長が作成した「学校運営の基本方針」を協議会として承認し、どのような子ども達を育てていきたいのか、というビジョンを共有することから始まります。その目標の実現に向けて、地域として協働して取り組んでいきます。

また協議会の機能の中で、「教職員の任用に関して意見を述べることが出来る」ことが懸念されています。しかし、これは教職員の個別人事に口出しするという意味ではない、と講師は説明します。

各地の協議会の先進的な取り組みとして、熊本地震で避難所を運営した事例や、コロナ禍で学校職員と一緒に清掃や消毒をした事例、町内会の役員会に生徒が参加した事例なども紹介していました。

しかし無理せずに、これまで根室市内の各校で実践してきた「北方領土学習」や「はぼまい学」など地域の特色ある取り組みを、これからのコミュニティ・スクールの活動の一環として取り組んでいくことを講師は提案していました。

「市議団ニュース」2000号
これからも、どうぞ
よろしくお願いします。

1979年6月19日に第1号が誕生してから42年。本紙で市議団ニュースは発行№2000号となりました。

多くの市民の皆様に「しんぶん赤旗日刊紙」・「日曜版」をご購読いただきまして、誠にありがとうございます。

今後とも日本共産党そして党市議団の活動へのご支援ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

市議団ニュース
日本共産党根室市議団ニュース No.7 79.3.16
六月定例市議会は7月2日(月)から
一般質問に神市議
あたらし市議が12日上京
20日復活・横業給付の延長を求め
労働者交歓
しばた重郎太
日本共産党根室地区委員会委員長
市議団ニュースの名前をつけて！
下川議員団長が入院
花咲港
花咲港漁業通りに防護柵
神市議が交渉し解決

市「ヒグマ講演会～知って防ぐヒグマの被害～」

11月12日、市が主催する「ヒグマ講演会～知って防ぐ、ヒグマの被害～」が、市総合文化会館で開催されました。

公益財団法人知床財団の職員が、ヒグマの生態や出会ってしまった時の対応、ヒグマとの共存のために生活上の注意すべきことを解説しました。

根室市でも今年、ヒグマの目撃情報は多く、すでに47件が報告されているそうです。昨年度の目撃件数（44件）をすでに超えています。

環境省や北海道の調査では、全道のヒグマの生息数や確認された分布状況も拡大傾向にあるそうです。

山林での被害だけでなく、近年では住宅地域での事故が報告されています。特に札幌などの都市部での出没する傾向になっており、農作物の食害など経済被害も増加しているそうです。

ヒグマ生息数が増えていること、地方における人口の減少と耕作放棄地の増加が要因となっているとしています。

学習能力があり、人のゴミ等を食べると行動が突然変化して、人や住宅に近づくようになるそうです。その状況を「スイッチが入る」と表現していました。そうなったら行動が元に戻ることは無く、捕殺するしかないそうです。

講師は斜里や羅臼の状況を報告しながら、今後も人とヒグマの距離はどんどん近くなって、道内全体が知床のようになっていくのではないか、と述べていました。

また、ヒグマの行動には個体差があり、突然問題を起こすため予測できない。野生動物の問題に対応する技術者や地域としての仕組みが必要になるのではないかとも、お話しされていました。